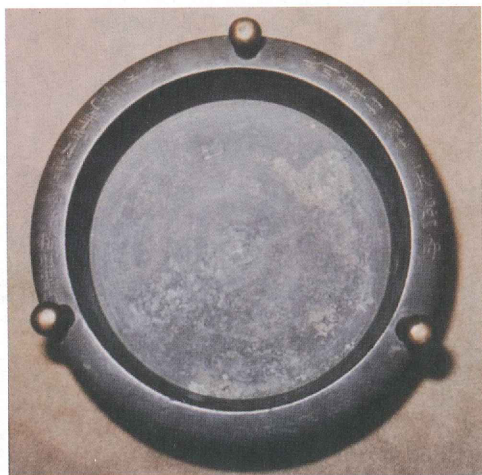


八成百万遍念仏講用具



〔登錄年月日〕平成四年一月一日  
 〔種別〕有形民俗文化財（信仰）  
 〔名称〕八成百万遍念仏講用具  
 〔点数〕三点  
 〔所有者等〕個人  
 〔所在地等〕井草二丁目

## 八成百万遍念仏講用具

本資料は真鍮製の鉦、木製の珠・麻製の紐で作られた長さ約八mの数珠と木製の撞木の三点である。鉦は側面に懸垂用の耳、口縁部裏に三つの足のある通形の伏鉦である。口縁部に願主銘、講中人数、製作年代及び作者名が毛彫りされ、安永二年（一七七三）四月に井草村（下井草村）の三木源四郎他講中三二人の発願により粉川市正の手によって铸造されたものであることがわかる。数珠は円周約八m、通し紐は麻製で房の対面に母珠が一つ、その両側に小珠約八七〇個が通されている。撞木は素人の手になる近代のものと思われ柄の表に「奉納本橋今□□」と墨書され裏にも記銘があるが判読不能である。

この鉦と数珠の使われた百万遍念仏は、杉並区内では江戸時代中期、安永・天明（一七七二〜一七八八）の頃から各地で行われ、八成地区では正月、五月、九月に行った。

この行事も昭和一〇年（一九三五）頃を境に行われなくなったが、農村における民間信仰の一端を窺わせる資料として価値の高いものである。

【文化財所在地】

